

主な出展リスト

- ◆ プログラム
PR-336 1916年2月14日 / マリンスキー劇場
PRBRHP-090 1927年4月30日 / モンテカルロ歌劇場
PR-666-HP 1990年3月5日 / ボリショイ劇場 / リュドミラ・セメニヤカ
- ◆ 台本
LT-044 プティパ/イワノフ版 / マリンスキー劇場 / 1895年
- ◆ アンティークプリント
AP-286 ロシア・バレエの風刺画 / ニコライ&セルゲイ・レガート兄弟画 / ロシア / 1903年
- ◆ 写真
PH-CC-013 ビョートル・チャイコフスキー / フランス / 撮影年不詳
PH-CC-017 ポリーナ(ペラゲイア)・カルバコフ(1877年の初演で主演) / ロシア / 撮影年不詳
PH-CC-029 ビエリーナ・レニャーニ(1895年の蘇演で主演) / 真珠 / ロシア / 1896年
PH-C-01-02ws アダム・クーバー(署名入り) / マシュー・ボーン版 / イギリス / 1996年頃
PH-C-02-75 ナターリヤ・マカロワ&ミハイル・パリシニコフ / ABT / 1980年代
PH-C-11-043ws イリーナ・パロノワ(署名入り) / アメリカ / 撮影年不詳(署名は1942年)
- ◆ ポストカード
PC-B-035-03 リュボーフィ・エゴロフ / ロシア / 1910年代
PC-B-119-14 マイヤ・プリセツカヤ / ロシア / 発行年不詳
PC-B-160-03ws ヴェラ・トレフィロワ(署名入り) / ロシア / 撮影年不詳(署名は1935年)
PC-B-163-09 ガリーナ・ウラーノワ / ロシア / 1977年
PC-W-024 コールスキー版: 第1幕「乾杯の踊り」 / ロシア / 発行年不詳
PC-W-025 コールスキー版: 第3幕「ヴェネツィア(ナポリ)の踊り」 / ロシア / 発行年不詳
- ◆ 切手
ST-BL-5-1 ビョートル・チャイコフスキー没後65周年 / ロシア / 1953年
ST-BL-12 ロシアのバレエ / ロシア / 1961年
ST-BL-62 マリウス・プティパのバレエ / ロシア / 1993年
ST-BL-68 アレクサンドル・コールスキーのバレエ / ロシア / 1996年
ST-BL-73-5 ナターリヤ・マスメルトノワ&ミハイル・ラヴロフスキー / タンザニア / 1990年代
ST-BL-126-01 インターナショナル・ダンス / 国連 / 2017年
- ◆ スコア
SC-37 オデットのヴァリエーション(楽譜・舞踊譜) / ロシア / 1989年
SC-38 オディールのヴァリエーション(楽譜・舞踊譜) / ロシア / 1989年

関連企画: 連載中

Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」連載中
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」(text: 森 瑠依子)
<http://www.chacott-jp.com/magazine/dance-library/essay/>



同時期開催

薄井憲二バレエ・コレクション特別展
「バレエと日本趣味」

「薄井憲二バレエ・コレクション」初の京都での展示です。「日本におけるチェコ文化年」である今年、各地で注目を集めているアルフォンス・ミュシャが手がけたアンティークプリント(「パリオペラ座」夢)1890年を中心とする「バレエと日本趣味」のテーマに加え、ジャン・コクトーの描いたワツラフ・ニジンスキーやアンナ・パヴロワのポスターなど、薄井憲二氏(京都市在住)が本展のために選ばれた逸品の数々をお届けいたします。

【日時】2017年12月12日(火)～24日(日)
12:00～19:00(最終日17:00まで / 月曜休廊 / 入場無料)
【会場】綾小路ギャラリー武(地下鉄「四条」徒歩4分 / 阪急「烏丸」徒歩2分)
京都市下京区綾小路通高倉東入ル高材木町 228-3 TEL 075-351-4787
主催: 薄井憲二 / 綾小路ギャラリー武 / 学校法人京都バレエ 京都バレエ専門学校
協力: 兵庫県立芸術文化センター「薄井憲二バレエ・コレクション」

Kenji Usui Ballet Collection
SWAN LAKE 140th
Anniversary

2017/11/3(Fri.)～2017/12/24(Sun.)

- ◎ 構成
森 瑠依子(もり・るいこ) / Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」連載
Ruiko Mori (Writer of Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」)
- ◎ 企画・監修
関 典子(せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)
舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。
- 関元ひかる(おかもと・ひかる) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Hikaru Okamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)
- 山本法子(やまもと・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Noriko Yamamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション
2017 企画展

『白鳥の湖』初演140周年
～ Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」連載
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」
関連企画～

2017/11/3(Fri.)～2017/12/24(Sun.)

今年2017年は、世界で最も有名なバレエ『白鳥の湖』がモスクワで初演されてから140年目にあたります。これを記念し、本展では、現在、Chacott Web Magazine「DANCE CUBE」に連載中の「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」と連動するかたちで、プログラム・写真・ポストカード・切手・スコアなどを一堂にご紹介いたします。初期の3つのヴァージョン(1877年・1895年・1901年)、『白鳥の湖』で成功を収めた数々のスター達、そして、各国で発行された繊細な切手などを通して、現在まで踊り継がれる『白鳥の湖』の魅力をご堪能ください。



没後65周年の1958年にロシアで発行された切手

～作曲家、ピョートル・ チャイコフスキー (1840～1893)～

3大バレエ『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』の作曲者で、特にワルツには名曲が多い。バレエ曲として残したのはこの3作のみだが、ジョージ・バラシニン振付『セレナード』『テーマとヴァリエーション』『ジュエルズ』(ダイヤモンド)、ジョン・クランコ振付『オネーギン』、ケネス・マクミラン振付『アナスタシア』など、彼の曲を用いた名作が数多く創作されている。

～3つの『白鳥の湖』～

1. 1877年、ポリショイ・バレエによる初演版(レイジンゲル版)

チャイコフスキーの作曲によるバレエ作品が初めて上演されたのは1877年3月。モスクワのポリショイ劇場での『白鳥の湖』で、振り付けたのはポリショイ・バレエのメートルド・バレエ、ヴェンツェル・レイジンゲルだった。主役はポリショイ・バレエのポリーナ・カルバコワとアンナ・ツベンチャンスカヤの2人。このレイジンゲル版は失敗作だったと伝わっているが、バレエ団のレパートリーからすぐに消えることはなく、1880年と1882年の改訂版を経て、1883年まで40回以上上演された。つまり、大きな成功とは言えないまでも、そこそこの人気作品だったのではないと思われる。

2. 1895年、ペテルブルグ帝室 マリンスキー劇場バレエによる蘇演版 (プティパ/イワノフ版)

初演から17年後の1894年3月、前年11月にコレラで亡くなったチャイコフスキーの追悼演奏会で、レフ・イワノフ振付の『白鳥の湖』第2幕が上演された。この舞台は好評で、翌1895年1月にマリウス・プティパ(第1幕1場と第2幕を振付)とイワノフ(第1幕2場、第2幕の一部、第3幕を振付)による全3幕版が初演された。現在世界中で上演されている『白鳥の湖』の基盤になっているのが、このプティパ/イワノフ版である。

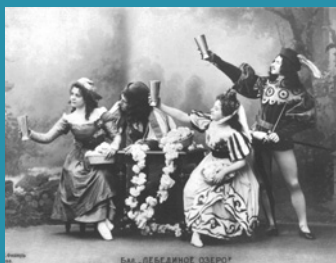
マリウス・プティパ(1818～1910)は、現在上演されている古典バレエのほとんどの振付に携わっている偉大なフランス生まれの振付家。アントレ〜アダージョ、男女それぞれのヴァリエーション、コーダで構成される「グラン・パド・ドゥ」の形式を確立した。主演を務めたイタリア人の名プリマ、ピエリーナ・レニャーニ(1868～1930)は、連続32回転の「グラン・フェット・アン・トゥールナン」をロシアで初めて披露し、観客を驚かせた。テクニクも演技力も優れたバレリーナで、マリンスキー劇場初の女性舞踏手の最高位「プリマ・バレリーナ・アッソルータ」に任命された。



ニコライ&セルゲイ・レガート兄弟によって描かれたプティパとレニャーニの風刺画

3. 1901年、ポリショイ・バレエによる改訂版(ゴールスキー版)

『白鳥の湖』を初演したモスクワのポリショイ劇場では、ペテルブルグから招かれてバレエ監督に就任したアレクサンドル・ゴールスキーが、1901年にプティパ/イワノフ版を改訂上演した。主演はイタリア人のアデリーナ・ジュリと、後にバレエ・リュスやアンナ・パヴロワのパートナーとしても活躍するミハイル・モルドキン。ゴールスキーは当時モスクワで人気を集めていたモスクワ芸術座の演劇のリアリズムに影響を受け、ドラマ性を重視し、群舞のシンメトリーの動きや古典的なマイムに現実的で自然な表現を採り入れた。



第1幕「乾杯の踊り」



第2幕「ヴェネツィア(ナポリ)の踊り」

～踊り継がれる 『白鳥の湖』～

1. 20世紀初期に帝室マリンスキー 劇場バレエで活躍したバレリーナ

1895年のプティパとイワノフによる蘇演以来、ペテルブルグの帝室マリンスキー劇場バレエでは『白鳥の湖』が重要なレパートリーとして上演され続けていた。このバレエの叙情性、幻想性などはマリンスキーの伝統のもとで育ったダンサー達の持ち味とよく調和し、このバレエ団からは現代まで、何人もの卓越したオデット/オディールが生まれている。



リュボーフ・エゴロワ
(1880～1972)



ヴェラトレフィロワ
(1875～1943)
1935年の署名入り
ポストカード

2. 20世紀の ポリショイ・バレエのスター

ロシア革命によって、帝政ロシアは社会主義共和国のソ連となる。首都もペテルブルグからモスクワに移り、バレエにおいてもこれまでペテルブルグの後塵を拝していたモスクワのポリショイ・バレエが、国を代表する存在となり、優秀なダンサーが集められるようになった。



ガリーナ・ウラーノワ(1910～1998)



マイヤ・プリセツカヤ(1925～2015)

3. 20世紀のヨーロッパのスター



1929年のバレエ・リュス解散後、所属ダンサー達は欧米各地に活躍の場を移し、新たな団体に所属して世界にバレエを広めた。中でもバレエ・リュスのダンサーやレパートリーを引き継いだ「バレエ・リュス・ド・モンテカルロ」は、度々名称や主宰者を変えながら長く存続し、世界各地に巡業して人気を集めた。

イリーナ・バロノワ
(1919～2008)

4. 20世紀後半のスター



1



2

【1】ナターリヤ・マカロワ(1940～)とミハイル・バリシニコフ(1948～)は、共にレニングラード・キエロフ・バレエ(現マリンスキー・バレエ)で地位を確立した後、1970年代に西側に亡命し、世界的な大スターとしてバレエ界にとどまらない活躍で名を成した。(写真はABTでの『白鳥の湖』)

【2】男性版『白鳥の湖』として一世を風靡したマシュー・ボーン振付版。初演で主役を演じたアダム・クーパー(1971～)は、英国ロイヤル・バレエ団を経て本作で一躍スターとなり、映画『リトル・ダンサー』、ミュージカル『雨に唄えば』『オン・ユア・トゥズ』などで活躍中。当コレクションには、薄井憲二氏の誕生日に寄せた貴重な直筆メッセージ入り写真が所蔵されている。